

# とちぎの歴史



こちようふくげん も けい  
国庁復元模型

鎌倉時代には、小山、宇都宮、足利、那須などの下野の武士御家人として活躍しました。戦国時代には、足利学校が「板東の大学」としてヨーロッパにまで、そのようすが伝えられていました。

江戸時代になると、日光は幕府の聖地として、東照宮をはじめとする華麗な建物が作られ、特別に保護されました。

7世紀後半に、下毛野国と那須国が統一されて下野国ができました。これが、今の栃木県のはじまりの形です。

下野国には国庁（今の県庁）や、国分寺、国分尼寺、下野薬師寺がつくられ、都から伝えられた、はなやかな文化がさかえていました。



足利学校



しょだいの けんちようしゃ  
初代の県庁舎（栃木市片岡写真館提供）

明治時代に入り廃藩置県（全国の藩を廃止して府県を置いた）が行われ、1873年（明治6年）6月15日に、現在の栃木県が誕生しました。最初の県庁は、現在の栃木市に置かれていましたが、1884年（明治17年）に宇都宮市へ移されました。